

ア 9-11-8

和泉国大鳥郡深井村文書・摂津国島下郡吹田村文書・河内国河内郡吉田村文書、その他が混在し、出所不明のものも含まれる。

和泉国大鳥郡深井村文書（現・大阪府堺市中区内）

内容および一括状況から、総計 24 点。大半は、江戸中期から後期にかけての年貢皆済目録である。深井村は、中村・畑山新田・南村に分かれていた。

内容から、この文書群は深井中村の外山家に伝えられたものと考えられ、関西大学図書館所蔵・未整理近世文書一覧中、連番 111 の「和泉国大鳥郡深井村外山家文書」の一部の可能性はある。

摂津国島下郡吹田村文書（現・大阪府吹田市内）

総計 76 点で、土地関係の名寄帳類は江戸中期、その他は明治期の行政文書が多い。

近代の大阪府島下郡吹田村の行政区画および自治体としての変遷は以下のとおりである。

〔明治 8 年、大区小区制〕第 8 大区 5 小区吹田村 → 〔明治 12 年、郡区町村編成法〕島下郡吹田村 → 〔明治 22 年 4 月 1 日、町村制〕島下郡吹田村（単独自治体） → 〔明治 29 年 4 月 1 日、島下郡・島上郡合併〕三島郡吹田村 → 〔明治 41 年 4 月 1 日、町制〕三島郡吹田町 → 〔昭和 15 年 4 月 1 日、市制〕吹田市（豊津・岸辺・千里村と合併）

この文書群は内容から、吹田村の早田家のものと考えられ、明治 8～9 年の大区小区制下では、早田弥三郎が戸長を務めていたことが窺える。

河内国河内郡吉田村文書（現・大阪府東大阪市内）

総数 11 点で、同国若江郡菱江村に関係する 1 点を含む。

一括収納されていた関西大学の茶封筒には「河内郡吉田村下島」と記載されていた。

江戸中期から後期、宝暦～天保頃のもので、土地・建物の売券が多い。宛先は吉田村下島の市郎右衛門である。

和泉国日根郡嘉祥寺村文書（現・大阪府泉南郡田尻町内）

一括 5 点で、すべて嘉永 7 年の年貢通である。

以上のほか、出所不明の文書が 12 点ある。他の箱の文書との比較や詳しい分析によって、今後帰属が明らかになる可能性がある。